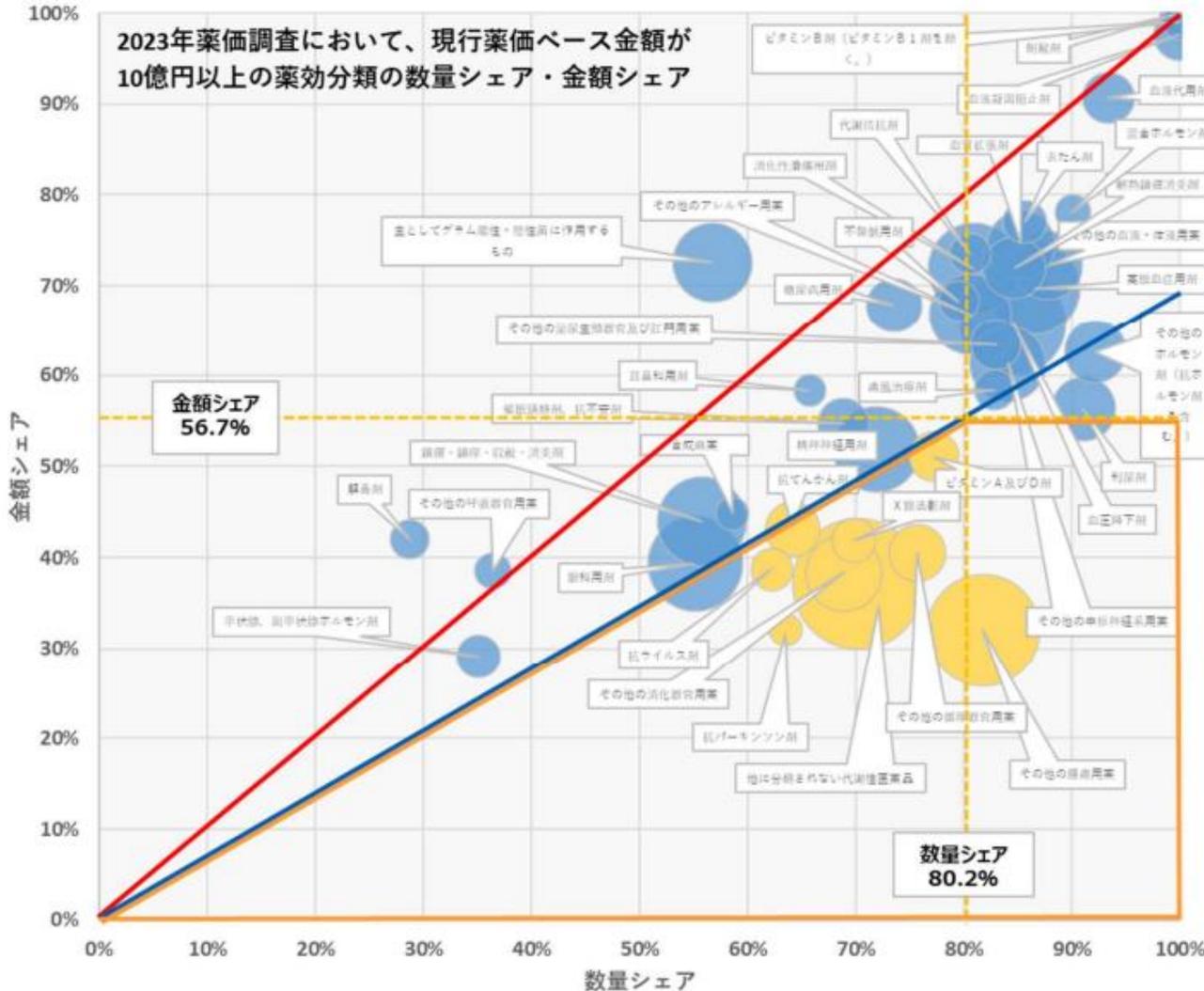


# 後発医薬品の使用割合に係る参考データについて

# 金額ベースでの目標値の設定についての考え方

薬効分類ごとに見て、金額ベースでの置き換えの余地があると考えられる領域（オレンジの台形）において、全体の金額シェア/数量シェアの傾き（青のライン）に近づいていくと仮定した場合の試算を参考に設定する。



※ あくまで新たな目標値の設定に当たって参考とするために試算したものであり、新たな目標値の達成に向けた内訳を示したものではありませんことに留意が必要

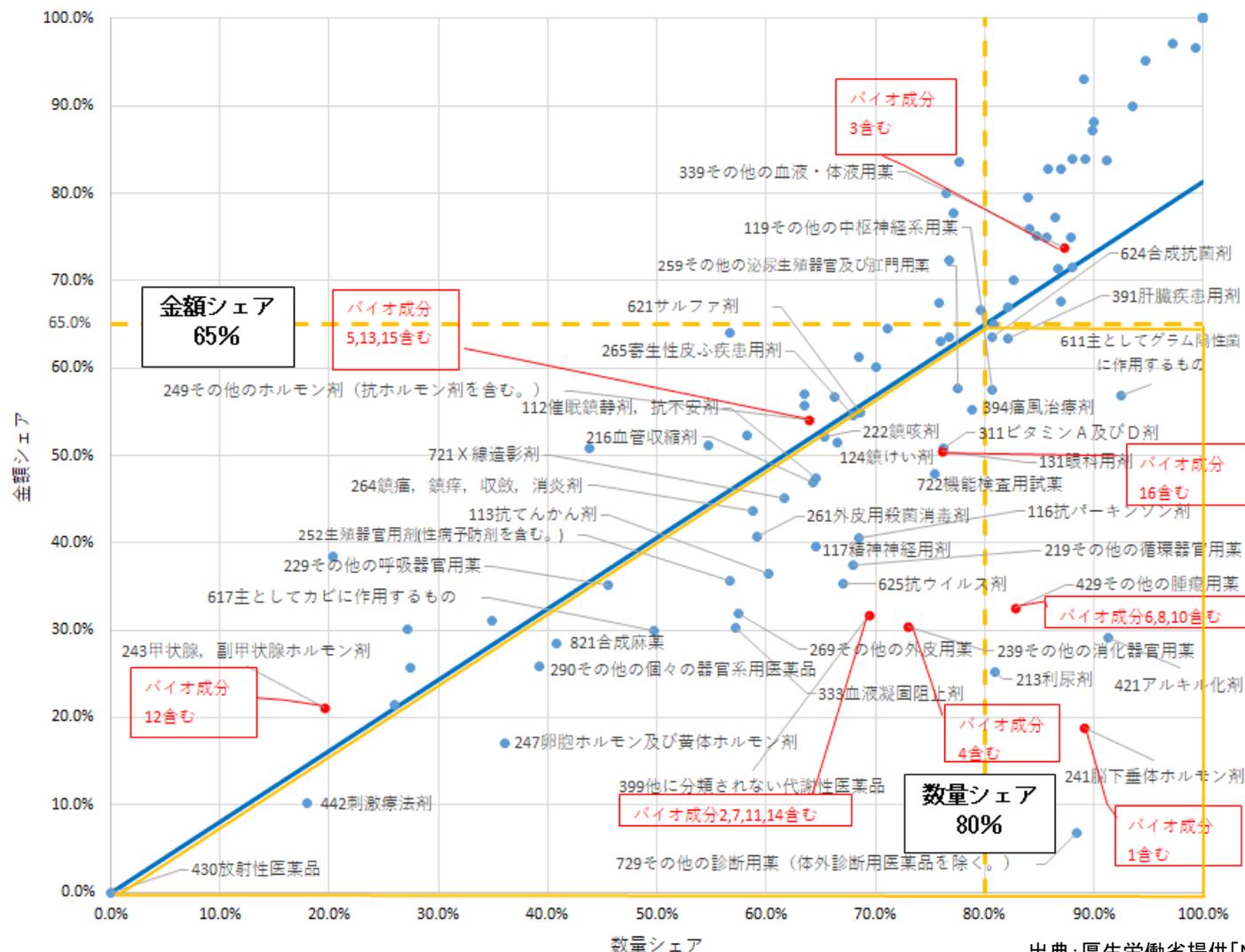
# 薬効分類ごとの後発医薬品の数量シェアと金額シェアの分布(県内)

県内の薬効分類ごとの後発医薬品の数量シェア・金額シェアの分布を見ると、数量シェアに対して、相対的に金額シェアが低い領域(※)には、バイオ医薬品が数多く含まれている。

(※)相対的に金額シェアが低い領域は、比較的高額で、置き換え余地がまだある薬剤が含まれていると考えられる。

目標達成を目指す観点から、ここでは目標値である数量シェア80%と金額シェア65%の交点を通る直線より下の領域(図の台形部分)を想定。

薬効分類別の数量シェア・金額シェア (令和4年度)



国から提供された薬効分類単位の後発医薬品置換率のデータを元に、薬効分類ごとの数量シェア・金額シェアの分布を図示したもの。  
(併せて、バイオ医薬品の各成分がどの薬効分類に含まれているかを明記)

# 令和4年度 バイオシミラーの使用割合(成分別の数量シェア)

バイオシミラーについては、全国的にも県内でも、全体的にまだ使用割合(数量シェア)の低い成分が多く、また、バイオ医薬品は一般的に高額でバイオシミラーに置き換えた時の薬価差も比較的大きいことから、今後も後発医薬品の数量ベース目標の達成を安定して維持しつつ、バイオシミラーの使用促進を図ることにより、医療費適正化効果が期待される。

成分名		県内の使用割合 (数量シェア)	(参考) 全国の使用割合 (数量シェア)
成分1	1 ソマトロピン	0.0%	29.6%
成分2	2 エポエチンアルファ	68.4%	94.2%
成分3	3 フィルグラスチム	100.0%	90.3%
成分4	4 インフリキシマブ	25.7%	29.0%
成分5	5 インスリングルルギン	79.7%	73.9%
成分6	6 リツキシマブ	92.8%	74.1%
成分7	7 エタネルセプト	51.6%	47.0%
成分8	8 トラスツズマブ	71.8%	65.6%
成分9	9 アガルシダーゼベータ	0.0%	18.3%
成分10	10 ベバシズマブ	44.0%	26.7%
成分11	11 ダルベポエチンアルファ	82.2%	76.4%
成分12	12 テリパラチド	47.9%	47.4%
成分13	13 インスリンリスプロ	25.3%	25.1%
成分14	14 アダリムマブ	12.9%	14.3%
成分15	15 インスリンアスパルト	4.3%	7.6%
成分16	16 ラニビズマブ	24.8%	15.8%

※バイオシミラーに80%以上置き換わった成分数(令和4年度)  
富山県:3成分/16成分  
全 国:2成分/16成分